

施設紹介

群馬県立循環器病センター

金子 達夫

当院の発祥は昭和14年に群馬県立教員保養所として現在の場所に開設されたところにかかのぼる。その後昭和32年に県立前橋保養所となり、診療科目を徐々に増やし昭和37年県立前橋病院と改称された。呼吸器疾患の減少とともに昭和40年代から循環器内科、外科を手がけるようになった。昭和54年心臓血管外科が増設され開心術が始められ、昭和61年からは冠状動脈撮影が開始された。昭和63年からCABG、待機的PTCAが行われるようになって循環器疾患を主体とした病院に変貌を遂げ、平成4年6月谷口興一院長が着任、平成6年4月から群馬県立循環器病センターとなり現在に至っている。病院建物も同時に全て新しくなり、その様相を一変させた。

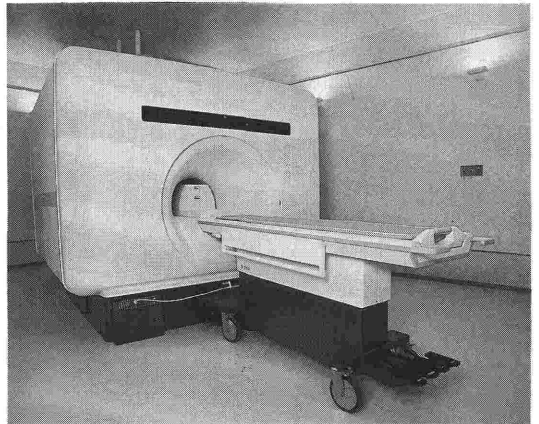
ベット数は236床、地上6階地下1階の建物で屋上に緊急用のヘリポートを備えている。診療科は、循環器内科第1部（虚血性疾患、循環器一般）、循環器内科第2部（不整脈）、心臓血管外科部、救急救命部、一般診療部（一般内科、神経内科、外科、整形外科、麻酔科、放射線科）、病理部となっている。他にこれらを支える部門として、看

護部、技術部（検査、放射線、ME、リハビリ、栄養）、薬剤部などがあり、別に人間ドック施設も備えている。職員は医師28名、看護婦162名のほか総勢270名（非常勤35名）が働いている。病棟は、3階に主な循環器関係施設を集中させ、手術室、カテ室、ICU・CCU、急性期病室が互いに有効に機能するように設計されている。ICU・CCUは6床（オープンと個室が各々3床）で、1床あたりの占有面積が広くとられている。診断用機器としては1階に、CT、MRIを始め核医学シンチ等が備えられている。生理検査も心電図エコー、運動負荷など詳細な検査部門が別に設置されている。

また敷地内には県成人病研究所が併設されており、循環器に関する調査研究をセンターと協力して行っている。公立病院としての役割は、地域医療、群馬大学第2内科学生実習、県立医療短期大学の実習病院、医師会とは心電図懇話会、赤城循



循環器病センター全景



MRI (1.5テスラ)

環器フォーラム主催などが行われ交流がはかられている。

中心となる循環器部門は、各部長以下内科は9名、外科は4名のスタッフで診療が行われている。6月からは新たに心臓リハビリ専門の医師が1名増員となる。臨床成績は、年間症例数で言うとカテーテルが800例あまり、またPTCAは約170例、EPSとアブレーションが約140例、心臓大血管手術が約100例となっている。これらの多くは紹介患者であり、前橋はもとより県下全域からやってくる。群馬県内では最も多くを手がけている病院の一つである。なかでも不整脈部門は北関東唯一であるだけに近県からも患者が治療に訪れる。心臓外科部門の特徴は自己血貯血と無輸血手術であり、症例の90%近くは退院まで自己血輸血も含んだ同種血無輸血で経過されている。さらに当院は循環器病院として24時間救急体制をとって患者の対応を行っている。循環器専門の当直医が常時待機し適切な指示を与え、必要に応じてカテーテル、手術などが夜間でも直ちに行われるようになっている。また救急隊との連携は専用の心電図伝送システムが設置されている。発信器を搭載した救急車との間で患者のデータ交感を行い指示が送られる。このシステムも24時間体制で受診待機中である。

当院のモットーは「温かくて風格のある病院」であり、高度先端医療を行いながら地域に根ざした明るい病院を目指している。今後は病院周囲の恵まれた環境を生かしたりリハビリ施設の充実が予定されており、より総合的な循環器医療が行えるよう進歩してゆくものと思われる。



心臓外科手術風景



カテーテル検査風景（不整脈部門）